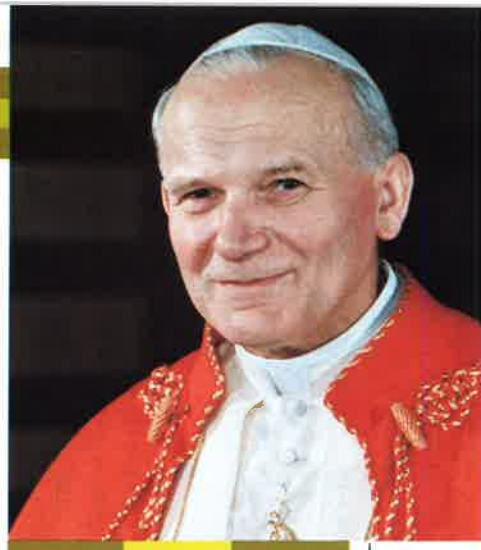
平成4年（1992年）5月10日　教皇様の声　（昭和59年10月1日第三種郵便物認可）
5　MAY,1992　毎月10日発行　第145号



教皇様の聲

絶え間なき援助者 聖マリア

★「その時からその弟子は、マリアを自分の家に引き取った。」(ヨハネ十九・二七)

カルワリオの丘で起ったご受難と愛のこの場面を追想し、心にめぐらせるたびに、イエズスがご自分の母親を私たちの母として、おゆだねになったあの言葉を思い出さずにはいられません。弟子ヨハネの内には、教会とあらゆる時代の信者たちがいます。私たち全員がそこにいます。「これがあなたの母だ。」　ごらんなさい、これが全ての人の母。その弟子はマリアを家に引き取りました。彼の心はマリアと共にあったからです。

ヨハネの模範に倣い、私たちもマリアに対して心を開きましょう。今日こうして「絶え間なき援助者聖マリア」の聖画(*)の前に集い、祈る私たちは、召使いとして、孝行息子、孝行娘としての心持ちを新たにせずにはいられません。

★「主よ、助けに急ぎたまえ」(詩篇七〇)

今日の典礼で読まれるこの祈りは、悪と苦しみにひしがれた人間の心の底から出る叫びです。神は聞き入れてくださいます。人間の旅路には、困難と苦労の時でさえ、希望が消えることはありません。一人ひとりを見守ってくださる御母がおられるのですから。

何世紀もの歴史の流れの中で、聖母が働かれたしるしはいくつもあり、聖母の現存を物語っています。聖母のお姿は礼拝堂、教会、御像、多くの絵画彫刻に現れて、人々の信心と芸術作品となってキリスト教の伝統を富ませてきました。神の御母の現存は、何と言っても慈しみ深い取りなしにあらわれています。いつでも聖母は人々の願いを聞き、取りなし、弁護し、信じる人々に救いの扉を開いてくださるのです。

★「あなたについて、光栄あることが語られた。」マリアよ、処女である御身の胎に、主なる神が「救いの泉」を置かれたからです。(詩篇八七・三)

シオンの娘、処女の胎に神の御子、人となったみことばが宿った。幸いな方、マリア。「あなたについて、光栄あることが語られた。」

聖母のイコンは神の母という秘義を語りかけ、信者たちに確信を与えてくれます。また、信じる人人の生涯において、聖母の果す役割を強調しています。マリアは希望と善の母、あわれみと恩寵の母です。「神は人類をあがなおうとお考えになったので」と、聖ベルナルドから霊感を得たリゴリオの聖アルフォンソは述べています。「贖いの功徳を全てマリアの手にゆだね、意のままに分配できるようにされた。」(Opere Ascetiche, Roma 1936, vol. VI, p.109)

このイコンを見ると、マリアは贖いの功徳と共に、良い知らせ、マリアの内にマリアを通して新約の中で実現し、全人類にもたらされた良い知らせを私たちにお恵みになっているようです。イエズスはマリアの右手を握り、あたかも御母に贖いの最初の実りを与え、人類救済のために主の御母が協力して果す驚くべき方法について証言しておられるようです。聖母の眼は人々を見つめ、神的恩寵の賜をふり注いでいるようです。

★「主みずからしるしをお与えくださる。処女が身ごもり、一人の子を生み、それをエンマヌエルと呼ぶだろう。」(イザヤ七・十四)

この聖なるイコンを眺める私たちは、イザヤが告げた約束が驚くべき方法で成就されたことを考えぬわけにはいきません。処女はエンマヌエル、すなわち私たちの間に住み給う神を生みます。永遠の御父の御子が人間となり、古い贖いの約束を果される。何と驚くべき秘義。それは救いと希望の秘義。本当の平和と深い喜びの秘義です。

けれどもこの処女は、世々を経て母としての役目を果し続けています。エンマヌエルを人々の間に霊的な形で生れさせ、私たちに贖い主を与えてくれます。彼女自身が贖い主の最初の、そして最も献身的なしもべなのです。キリストに従う人々が、つねに神的な教師・主に立ち返るよう励ましています。

★兄弟姉妹の皆さん、この聖なる場所に来られた皆さんに申し上げたいのです。この聖体祭儀から力を受けて、幸いな処女「絶え間なき援助者」聖マリアを黙想し、聖母への献身を新たにしてください。聖母は「キリストに次いで最も高く、またわれわれに最も近い位置を占め」(教会憲章、五四番)「救われるべき全ての人と結ばれている」(同五三番)ことを忘れないでください。この優しい御母は、私たちの限界を知るとき、頼まれる前から私たちに近づいて助けてくださるのです。

主は御母を私たちの弁護者と定め、私たちを守る力を御母にお授けになりました。

マリアは、信頼をもって仰ぎ見る教会を助けてくださいます。苦しむ人、失望落胆する人々を憐れみ、支えてくださいます。今人類が抱えている深刻な問題を、慈しみ深くごらんになります。

「絶え間なき援助者聖マリア」は、誰にでも、信仰をもって救いの道を歩むための光と力を与えてくださいます。

リゴリオの聖アルフォンソの言葉を忘れないでください。「人間が今までに得た、またこれからも得るすべての善と助けと恩寵は神から、マリアとその取りなしを通じて、送られる」(Opere Ascetiche, idem, p. 110)

★「壮大なしるしが天に現れた。太陽に包まれた婦人があり…。」(黙示録十二・一)

人類という空に、確かな希望のしるしが現れました。絶え間なき

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済
© 1992

発行所
財団法人■精道教育促進協会
〒659兵庫県芦屋市船戸町12－6
TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

援助者、聖マリア。

そうです。神のみが全ての恩寵の源、万物の絶対的な主です。しかし神はマリアの取りなしを何よりも喜ばれます。太陽をまとった婦人、すべてを手中にできる彼女は、自分自身のためではなく、私たちのために取りなすからです。マリアはイエズス・キリストの名によって願い、その祈りは母の心からわき出るものです。ですから、神は願いを聞かないわけには行かないのです。　壮大な希望のしるしよ、私たちは御身に向かって祈ります。絶え間なき援助者処女マリア、贖い主の聖なる御母、再び立ち上ろうとする御身の民を助けたまえ。紀元二千年に向かって歩む喜びを与えたまえ。恵まれぬ人人との心のこもった活発な連帯感のうちに、新たに勇気をもって、真正で永続的な平和を切望する人間の、あらゆる関係の基礎であり頂点である御子の福音を宣言しつつ。

私たちが仰ぎ見る聖画像の幼きイエズスのように、御身の右手につかまりたいと思います。御身は力にも優しさにも欠けるところがありません。必要な時にいつでも私たちを助けることがおできになります。

今こそ御身の時です。どうか助けに来てください。すべての慰め、希望となってください。アーメン。

（九一・六・三〇）

（＊）イコン風に描かれた聖画で、聖ルカ作とも言われるが、一八一二年この絵のあった聖マテオ教会が破壊され、五四年間聖画は行方不明になっていた。再発見されたとき、ピオ九世教皇は元の教会跡に建てられていたレデンプトール会の教会に与えられた。

黙想の栞

祈り

決して祈りをやめないでほしい。一日として祈らぬ日のないように。祈りは義務であると同時に大きな喜びである。祈りはキリストを仲介者とした、御父との語り合いであるから。毎日曜日は御ミサへ、できれば週日中にも何度か。毎日、朝夕の祈りとその他適当なときの祈りを忘らないようにしよう。

召しだし

神様に召されているのではないかと感じている人に一言。はっきりと道がわかるように絶えず祈り続けてください。そして、喜んで「はい」と応えてください。

マリア

生活の中にマリアを受け入れなければなりません。喜び迎えるのです。マリアが母となってくださることを歓迎しなければなりません。心と良心を聖母マリアに向けて開いてください。

家庭

あなたの家庭はつねに祈りの場……毎日家族が一緒に祈る家庭であらねばなりません。

家庭は福音の種を蒔くべき第一の畑です。両親と子供は家庭内での生きた細胞です。家庭の中でキリスト教的理想を自分のものとして、神と兄弟に仕えることを学んでいくのです。

ポーランドの家族のおかげで私は生命を受け、信仰を持ち、話すことができる。家庭は神の御力をうけているので、決して力を失ったりはしない。家庭を弱めたり破壊したりするものや、生命と愛にあふれたほんとうの家庭の邪魔になるものを克服しよう。

家庭の価値が社会的経済的圧力で脅かされるようなときには、家庭の大切さを改めて主張しなければなりません。家庭は一人ひとりの人間にとって必要であるだけではなく、社会、国家の善のためにも必要であると。

ホセマリア・エスクリバー・デ・バラゲル「列聖への道程」　カプッチ、ガリード著　新田壮一郎、郡山敬訳

今年五月十七日、尊者ホセマリア・エスクリバー師はローマにて福者の列に上げられることになりました。本書は師の簡単な伝記と共に、その列聖手続の経過について、段階をおって詳しい説明を加えています。

定価八〇〇円　〒三〇〇円

神の国・キリストの国

教会シリーズ3

〈キリストの国はこの世で始まるが、その超越的な性格を忘れてはならない〉

♪（…）本日はもう一つの歴史上の事実、神学的に非常に重大な意味をもつ事実について考えてみましょう。イエズス・キリストは救い主としての使命を始めるに当り、次のように宣言なさいました。「時は満ちた、神の国は近づいた。」（マルコ一・十五）この言葉は、聖パウロの言うように、今や「時が満ちた」（ガラツィア四・四参照）ことを示し、新しい契約への道をひらくものです。その契約は、贖いのための御子の御託身の秘義にもとづく永遠の契約と定められています。イエズス・キリストの生涯と使命において、神の国は「近づいた」（ルカ十・九）のみならず、すでにこの世に存在し、人類の歴史の中に働いていました。イエズス御自身「神の国は実にあなたたちの中にある」と仰せになっています。

♪　準備期間と成就の時、旧約と新約の間には、規範と本質の面で違いが見られます。イエズス御自身、先駆者である洗礼者ヨハネについて述べるとき、その違いを明らかにしておられます。「まことに私は言う、女から生まれた者のうちで、洗者ヨハネよりも偉大な人は出なかった。だが天の国でいちばん小さな人も彼より偉大である。」（マテオ十一・十一）

ヨハネは、ヨルダン川のほとりで（また牢獄でも）確かに誰にも負けない働きをしましたし、昔の預言者たちよりもすぐれた者でした。（ルカ七・二六～二七参照）直接に救い主の道を準備するという役目を帯びていたのです。しかしある意味では、ヨハネは新しい王国の入り口にとどまっていたにすぎません。その王国はキリストの到来とともに世に入り、救い主の使命を通して明らかになっていったからです。ただキリストを通じてのみ、個々の人間は真に「王国の子ら」すなわち、自ら正当な後継者であると自負していたユダヤ人たちにまさって、王国を継ぐ子供となることができるのです。（マテオ八・十二参照）

♪　新しい王国にはきわだって霊的な性質があります。そこに入るには、悔い改めて福音を信じ、闇の力から解き放たれて、キリストが人間たちにお送りになっ

説教・講話・書簡等の抄訳

た聖霊の力に従うことが必要です。イエズスが言われたように、「私が神の霊によって悪魔を追い出すなら、神の国は到来している」のです。（マテオ十二・二八、ルカ十一・二〇参照）

この王国の霊的・超越的な性格は、福音書の本文にも次のような表現で示されています。「天の王国」。これはすばらしいイメージで、王国の起源と目的―すなわち天国―をかいま見せてくれます。同様に、神であり人である御方の尊厳をも見ることができます。御託身を通じて神の国を歴史の中で具体化されたその御方とは、キリストです。

♪　神の王国の超越性は、その起源が人間のイニシアティブによるのではなく、神御自身のお考えと計画によるものであるという事実に由来します。イエズス・キリストは神の国をこの世にもたらされましたが、神に遣わされた単なる預言者の一人ではなく、御父と同等の御子、御託身によって人となられた方なのです。したがって、神の国とは御父と御子の王国です。神の国とはキリストの王国であり、人間もこの新しい霊的な永遠の世界に入ることができるよう、地上で始まった天の王国です。イエズスは仰せになります。「すべてのものは、父から私にまかされました。…父が何者かを知っているのは、子と子が示しを与えた人のほかにはありません。」（マテオ十一・二七）「父が命を左右されるように、子にもそれを左右させ、こうして、父は子を最高の審判者と定められた。彼は人の子だからである。」（ヨハネ五・二六～二七）

御父と御子と共に聖霊も働かれ、この世に王国を実現なさいます。イエズス自身もこれを啓示して、人の子が「神の霊によって悪魔を追い出す」のだから「神の国は到来している」と仰せになりました。

♪　さて、神の王国がこの世において実現し、発展するとは言え、王国の目指す目的は「天国」にあります。その起源も、目的も超越的であり、人がキリストへの忠実を保ちつつこの世の生涯を送るなら、永遠の世界に達することができます。イエズスは以上のことを教えるために、言われます。「最高の審判者」として（ヨハネ五・二七）人の子は、世の終りにその国の中から「すべてのつまずきと悪を行う人々」すなわち、キリストの王国の中でさえも悪を行った者たちを集めよとお命じになる。さらに「そのとき義人たちは父の国で太陽のように輝く」と。（マテオ十三・四一、四三）　こうして「父の国」は最後の完成を見ることとなります。その時御子は、贖いのみわざと聖霊の働きによって救われ、選ばれた人々を御父にお委ねになります。そして、メシアの王国が神の王国に他ならないことが明らかになります。（マテオ二五・三四、1コリント十五・二四参照）

受肉（託身）したみことばキリストの王国には、歴史的な周期が見られます。しかし、この王国のアルファとオメガは、言いかえれば、王国が生れ、成長し、発展し、完成するための基礎は、三位一体の神秘なのです。前にも説明したように（この後もう一度述べるつもりですが）教会の秘義は三位一体の秘義を基礎としています。

♪　一つの秘義から別の秘義への変り目でありつなぎ目であるキリストは、すでに旧約の中で預言され、神の国を立てる王・救い主として待ち望まれていましたが、新約においては、ご自身が神の国であることを、自らの人格と宣教によってお示しになりました。キリストは神の王国が御自分と共に世に来たことを宣言されたのみならず、人間的に見て最も大切なものさえも全て「神の国のために」捨て去るべきこと（ルカ十八・二九～三〇参照）をお教えになりました。言い換えれば「私の名のために」（マテオ十九・二九）「私のため福音のために」（マルコ十・二九）全てを捨てるべきである、ということです。

こうして、神の国はキリストの王国に他ならないことがわかります。その王国はキリストの内に存在し、実現します。それはキリスト御自身の意志によって使徒たちに受け継がれ、使徒たちを通じてキリストを信じる全ての人のところへ到達します。「父が私のために王国を備えられたように、私もまたあなたたちのために王国を備えよう。」（ルカ二二・二九）　その王国は、人類の歴史をつらぬいて、全世界に広がるキリスト御自身の内に存在します。キリストから来る新しい生命、キリストが遣わされた仲介者である聖霊の御働きによって信じる人々に伝えられる新しい生命のことなのです。（ヨハネ一・十六、七・三八～三九、十五・二六、十六・七参照）

♪　キリストがこの世に実現された救いの王国の、正確で決定的な意味は、十字架上での受難と死が明らかに示しています。エルサレム入城の時にキリストがなさったことは、マテオがザカリアの預言の成就として記したように、「王が来られる。雌ろばと荷を担う獣の子の子ろばに乗って。」（ザカリア九・九、マテオ二一・五）　預言者が考え、イエズスが意図し、福音史家が説明しているのは、ろばが従順と謙遜を表すということです。イエズスは柔和でへりくだった王であり、ダビドの町に入って、真の救い主としての王権を自らの犠牲によって完成させたのでした。

この王権は、ピラトの法廷でイエズスがお受けになった訊問の場面で明らかになりました。イエズスは「国民を乱し、チェザルに税を納めることを禁じ、自ら王キリストだと言った」（ルカ二三・二）かどで告発されたのです。そこでピラトは、本当に王かと尋ねました。イエズスはお答えになりました。「私の国はこの世のものではない。もし私の国がこの世のものなら、私の兵士たちはユダヤ人に私を渡すまいとして戦っただろう。だが私の国はこの世からのものではない。」「ピラトが『するとあなたは王か』と聞いたので、イエズスは『あなたの言うとおり私は王である。私は真理を証明するために生まれ、この世に来た。真理につく者は私の声を聞く』と答えられた。」（ヨハネ十八・三六～三七）

♪　それはイスラエルの歴史を通して続いた昔の預言全てのしめくくりでした。預言は事実となり、キリストにおいて明らかにされました。イエズスの言葉は闇を縫う光のように、秘義の意味を私たちに悟らせてくれます。それは三つの言葉に要約できます。神の王国、救い主の王国、教会として呼び集められた神の民。預言と救いの光に照らされて、私たちはさらに深く理解し、はっきりと意識しつつイエズスのお教えになった祈りを繰り返すことができるのです。「み国が来ますように。」（マテオ六・十）　それはキリストと共に世に入った御父の王国。この世界と人間の中で働く聖霊の力によって発展する救い主の王国。こうして私たちは、天国の栄光の中に在す御父のもとへ立ち返ることができるのです。

（九一・九・四、神の国についてのお話）

不変の教え

アメリカ巡礼

グアダルーペの聖母

皆さん、今日はメキシコ市にあるグアダルーペの聖母のバシリカへと霊的巡礼に出かけましょう。聖ピオ十世は、グアダルーペの聖母をメキシコの守護の聖人・女王、アメリカとフィリピンの元后と宣言しています。

グアダルーペの聖母は、まさに「アメリカ最初の福音宣教者」（メキシコ市到着に際してのお話、九〇年五月六日）と呼ぶにふさわしい御方です。実際、アメリカ大陸への福音宣教の夜明けに、キリストのメッセージがメキシコの地に届いて間もない一五三一年、聖母はテペヤクの丘でファン・ディエゴに姿をお見せになり、その地の人々への母としての加護をお示しになりました。

変ることなく、途切れることなく続いた伝承によれば、聖母のお姿がファンのポンチョにしるされ、それ以来、キリスト信者のあつい崇敬を集めているということです。数百年の間、聖堂には絶え間なく巡礼者たちが訪れ、この驚くべき出来事の記憶を新たにしてきました。ここはマリア信心の一大中心地であり、ラテンアメリカ全土に広がる福音の発信源なのです。

一九七九年一月二七日、最初の使徒的訪問で、私は幸いにもグアダルーペの聖母のもとに立ち寄ることができました。その時、まだ始まって間もなかった教皇としての務めを、母として助けてくださるよう、お願いしました。同時に、第三回ラテンアメリカ司教総会の行方を聖母のご保護に委ねました。近くの町プエブラ・デ・ロス・アンジェルスで開催されたこの会議には、私自身が開会の辞を述べ、アメリカ福音宣教のための希望と宣教計画を共にしたいと思ったのです。

現在、十月にサント・ドミンゴで開催予定の第四回会議のため、熱心な準備が続いています。私も皆さんと共に、もう一度グアダルーペの聖堂へと旅立ち、新たな福音宣教の星なる聖母マリアに、ラテンアメリカ共同体の期待をゆだね、キリストの十字架到着五百年記念のクライマックスとなるこの重要な会議を成功させてくださるよう祈りたいと思います。

福者ファン・ディエゴ、聖母のメッセージを託されるという特権を得た証人を思い起すとき、土着の人々のことがとりわけ心に浮かびます。この人々に特別に御挨拶したいと思います。サント・ドミンゴに集まる司教方もこの人々の抱える問題を考えるために全力を尽してくださることでしょう。それと同時に歴史のこの時点を生きる全ての人々の希望、すなわちもっと正義と連帯に満ちた社会への希望のためにも。

全世界のキリスト信者がキリストとマリアの模範にならい、さらに兄弟姉妹に仕えるよう努め、貧しい人々を第一に愛する心を培いますように。

（一・二六）

アパレシーダの聖母

霊的巡礼としてラテン・アメリカ大陸各地のマリア巡礼地をめぐる旅を続けつつ、アメリカ福音宣教五百年を記念する私たちが今回訪ねるのはブラジル・サンパウロ州の「アパレシーダの聖母」です。一九三〇年、教皇ピオ十一世によってブラジルの守護の聖人と宣言されました。

伝えによれば、この尊い御像は一七一七年、パライバ川で漁をしていた漁師たちに発見され、まず小さな礼拝堂に納められ、後にとある教会に安置されましたが、そこはたちまち巡礼者の集う所、熱烈な宗教心の発生源、国中いたる所に広まった福音の中心地となりました。私自身、このようなめざましい霊的バイタリティを二度の使徒的訪問の際、目にすることができました。広大で愛すべき国、ブラジルを訪れるのは喜ばしいことでした。一九八〇年、新しい教会堂の祝別のため、そして昨年十月のことです。

アパレシーダの聖母の教会堂は「信仰の首都」「この国でのマリアの都」などと呼ばれています。何百万もの信者たちが、「福音宣教者キリスト」との出会いを求めてここに集まり、「ブラジルの宣教者」マリアを通してキリストに会おうと願っています。

今、私たちもその人々の祈りに加わり、聖母が私たちを「異邦人を照らす光」（ルカ二・三二）キリストのもとに導いてくださるよう、祈りましょう。本日の典礼朗読は「神殿におられるイエズス」ですが、キリスト信者の生活は「世界を照らす光」である主との絶え間ない出会いであることを示しているようです。そしてマリアは、改心と新しい生命への旅の途上で私たちを導いてくださいます。「救い主のわざに全く独自な方法で協力した」（教会憲章、六一番）御方だからです。

アパレシーダの聖母の取りの中で連帯と希望に満ちたより良い未来を築こうとするブラジルの人々全ての心と精神を、福音が照らしてくれるよう祈りましょう。

力と活気にあふれた、おびただしい数のブラジルのキリスト教共同体のため、聖母の特別な助けを願い求めます。ブラジルのさまざまな民族と文化の多様性は、サント・ドミンゴで開かれるラテンアメリカ司教総会議のため、アメリカの新たな福音宣教のガイドラインを作り上げるうえで、必ずや大きな貢献をしてくれるでしょう。

どうか聖母が愛するブラジルの人々の行く道を守り、唯一の真理キリストを信じる人々が共に、普遍の教会と一致して行くことができるよう、導き給わんことを。そして勇気をもって現代の霊的・社会的試練の数々に立ち向かう力をお与えくださいますように。

（一一・二）

「教皇様の声」　ヨハネ・パウロ二世教皇の説教、書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙　■毎月十日発行　■定価　一部八十円　送料実費　■一年予約九百円　送料六百円　■二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替　神戸　3-72393